

大阪・大坂城下町跡

おおさかじょうかまち

西端に近い。

1 所在地 一 大阪市中央区高麗橋二丁目、二 同区道修町
二 調査期間 一 一九九五年(平7)四月～五月、二 一九九

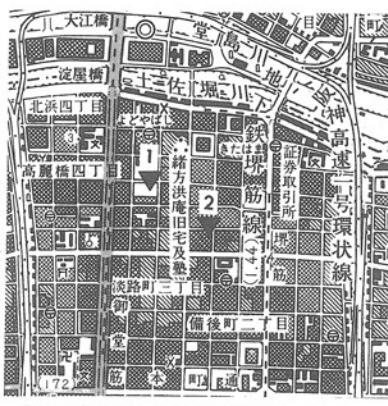
五年四月～七月

二 〇J九四一～六次調査

調査地は道修町通りを堺筋から西に入ったところである。豊臣後期に開発されて以降、一八世紀初めまでの間、間口二間前後の三つの敷地に分かれていたと推定され、五時期の建物群が確認された。このうち、一七世紀末から一八世紀初めの町屋のひとつは、大量の硯の未製品が出土したことから硯屋であったと考えられる。

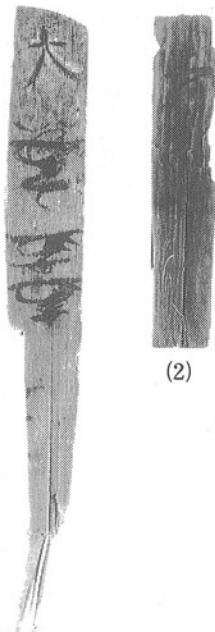
木筒の大半は屋敷地の裏にあるゴミ捨て穴からの出土である。(4) (5)は豊臣後期、(6)～(15)は一七世紀前半から中頃、(16)～(21)は一七世紀後半、(22)は前述の硯屋に伴うものである。このうち、(7)～(11)と(12)～(15)はそれぞれ同じゴミ捨て穴から出土した。

8 木筒の糺文・内容
一 〇J九四一～五次調査
(1) 「く七ひや□□」
「く七ひや□□」



(大阪東北部 二万五千分の一)

4 調査担当者 一 豆谷浩之、二 南 秀雄
5 遺跡の種類 近世城下町
6 遺跡の年代 安土桃山時代～江戸時代
7 遺跡及び木筒出土遺構の概要
一 〇J九四一～五次調査
大阪の船場地域は、慶長三年(一五九八)に豊臣氏大坂城の三の丸が築かれたときに、新たに整備された城下町である。調査地点は船場の北部に位置し、豊臣期における城下町の中では



(2)

(3) 表

・「一 喜兵衛」

・「大十口入」

「一郎右衛門」

163×20×3 051

56×19×3 011

・「久口」

・「久升まい口」

113×21×2 033

(6)

(7)

(8)

(9)

(10)

(11)

(12)

「久升口」

・「大(花押) (花押) (花押) □」

103×20×2 032

・「○口」

・「○口六十八」

177×17×4 011

・「□」

(203)×24×5 061

・「米五斗」

・「□口」

89×28×4 051

・「久口」

・「久升五まい」

122×23×2 032

(1) (2) はともに判読困難であるが、形状から荷札である」とが明らかである。(3) はもともと桶の底板のような円形の板の一部であったと思われるが、その廃材を花押の習書のために用いたのであろう。

二〇九四一一六次調査

全部で二八点の木簡を確認したが、判読不能なものや極めて断片的な記述しかわからないものは除き、以下の一九点を紹介する。(19) (22) は蓋に書かれたものである。

(4)

- ・「(目印) 大津九兵衛」
- ・「(目印) 古二束ゆい」

165×21×3 011

143×19×2 033

(22)

木簡研究 第一三号

卷之四

笛山晴生

100

(漆塗蓋)

178×(95)×3 061

111×21×4 051
(96)×26×4 033

（豆各治一
南秀旗、烏居信子）

卷頭言	木簡研究第一三号	笠山 晴生	
一九九〇年出土の木簡	概要	平城京跡左京三条三坊十二坪 東大寺旧境内 (三社池) 藤原宮跡 藤原京跡右京七条二坊 山田道跡 山田寺跡 長岡京跡 今里城跡 烏羽離宮跡 王生寺境内遺跡 里遺跡 大坂城跡 住友銅吹所跡 山之内遺跡 勝山遺跡 新金岡更池遺跡 豊岡郡条里遺跡 五反島遺跡 上小名田遺跡 吉田南遺跡 明石城 武家屋敷跡 今宿丁田遺跡 褐狹遺跡 伊賀國府推定地 濑名遺跡 忍城跡 市原条里制遺跡 鉢形地区条里遺跡 石田三宅遺跡 斗西遺跡 一乘谷朝倉氏遺跡 净水寺跡 上荒屋遺跡 田中遺跡 八幡林遺跡 緒立C遺跡 的場遺跡 荒田目条里制遺構 柳之御所跡 矢野遺跡 岡山城二之丸跡 草戸千軒町遺跡 長登銅山跡 東山崎・水田遺跡 鴻臚館跡 大宰府跡 観世音寺跡 多田遺跡 上高橋高田遺跡 一九七七年以前出土の木簡 (一三)	一九九〇年出土の木簡
飛鳥京跡 縢明日香養護学校遺跡 大坂城跡	下曾我遺跡と出土木簡	鈴木 靖民	
香川県長福寺出土の木簡	「二条大路木簡」と古代の食料品貢進制度	館野 和己	
中國簡牘学國際學術研討會參加記	樋口 知志	佐藤 信	
彙報			